



神明中だより

令和6年3月13日

3月号

<http://www.suginami-school.ed.jp/shinmeichu/>

杉並区立神明中学校

教育目標 創造・鍛錬・共生

校訓 自主・自律

杉並区南荻窪2-37-28

「東日本大震災の教訓から防災の輪を広げましょう」

副校長 中里 勝司

今年の冬は例年よりも暖かく、地球温暖化を感じずにはられません。東京の桜の開花予想が3月19日と発表され、卒業式に桜の花がちらほらとみられるのでしょうか。三年生にとって良き日となるように学校全体で準備に全力で取り組んでいる最中です。

さて、2011年3月11日に東日本大震災が発生してから13年の年月が経ちました。被災地ではいまだに行方不明の方々がいらっしゃいます。また、復興へ向けての取り組みが全力で行われてる中、今でも避難生活を送る人がいます。私たちは決してそのことを忘れてはいけません。

震災後は、今でもどのようにしたら犠牲者を増やさずに多くの人を助けられるのか、様々な専門家により研究が続けられています。犠牲になられた方の90.6%が津波等による溺死が原因でした。津波から逃げることでできた人の証言が新たな防災機能に大きな役目を果たしています。

三陸地方に古くから伝わる「津波てんでんこ」という有名な言葉があります。「津波てんでんこ」とは、「地震が起きたら津波が来るので、肉親にもかまわず、各自、てんでんばらばらに逃げろ」という意味です。誰かを助けようとしたり、誰かに頼ろうとしたりすると「共倒れ」になってしまうことを防ぐ、「自助」を重視した、厳格な戒めであると考えられてきました。しかし、実際には一人ひとりがばらばらに逃げることによってその姿を見る人が増えて、地域全体の避難行動が促進される、「共助」の教えでもあることが指摘されています。災害が起きて避難しなくてはならないと頭の中ではわかっているにもかかわらず、すぐに行動に移せず迷ってしまう人が多くいます。その時に近くにいる人がすぐに避難行動をとったり、「逃げましょう」「逃げたほうがいいですよ」と声をかけてもらったりすると、避難しようという気持ちが促されて行動に移すことができるといいます。このきっかけとなる人を「率先避難者」といい、東日本大震災での生存者の証言による研究で、この存在が非常に重要になるということがわかっています。

現在避難訓練は学校以外の場で、自主的に地域ごとや集合住宅等で行われ、その輪は広がっています。災害は他人ごとではなく、自分にも関係するものとして防災意識が高まってきました。家具転倒防止などの防災用具の使用や避難用品の備蓄、避難経路の確認、家族がばらばらに活動していた時のそれぞれの避難先や連絡方法の確認は重要です。まずは個人や家族で、そして隣近所、地域でと防災の輪は広がり、つながっていきます。いざという時に行動に移せるように、日ごろから家族や周りの皆さんと防災について考えておきましょう。

《2・3月のアルバム》

《遊びのフェスタ》2月3日(土)



高井戸四小での1年生の様子

《食育授業》3月6日(水)



2年生食育(体育館)

3年生食育(調理室)

《三年生を送る会》3月9日(土)



クイズ



記念品贈呈



くす玉披露



花道退場

《3年生球技&レク大会》3月11日(月)



体育館でのバスケットボール



視聴覚室でのレク



【4月の予定】

4 /	8 (月)	始業式	18 (木)	全国学力調査(3)
	9 (火)	入学式	19 (金)	全校保護者会
	11 (木)	新入生歓迎会	26 (金)	身体計測

